

## 国語科の主体的・対話的で深い学びを促す学習指導

中 野 晶 仁 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

古 園 正 樹 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

下 戸 勇 介 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

### Practical guidance to encourage dialogue and deep learning in Japanese language classes

NAKANO Akihito・FURUZONO Masaki・SAGEDO Yusuke

キーワード：言語能力、言葉による見方・考え方、考えの再構築、学習課題設定、ひとみ学習

#### 1. はじめに

私たちは、幼い頃から言葉を通して様々な情報を得て自分の考えを形成し、人と伝え合うことで人間関係を築いている。そして、発達に応じて様々な言葉の使い方を獲得し、自分の考えを深めて自己実現を図ったり、他者と協働的に関わって問題を解決したりすることができるようになる。学校において言葉は、他者の考えを理解したり自分の考えを表現したりするための手段として必要不可欠のものであり、全ての学習の基盤となる言語能力の育成が求められている。言語能力を高めることにおいて、母国語としての国語を学ぶ国語科の果たす役割は大きい。そのため、国語科を学習することを通して高める資質・能力は、国語科はもちろんのこと他教科等における学びを深めたり、実生活における暮らしを豊かにしたりするものであると言える。

#### 2. 国語科における主体的・対話的で深い学び

国語科における主体的・対話的で深い学びを、次のようにとらえた。

課題解決のために自分が話したり聞いたり書いたり読んだりした言葉を、言葉による見方・考え方を働かせて、理解し直したり表現し直したりしながら考えを再構築し、学びを振り返ること。

上記の国語科の特質に応じた見方・考え方（以下「言葉による見方・考え方」）を、以下の表1のようにとらえた。

【表1 言葉による見方・考え方】

	話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
見方 考え方	・ 主に創造的・論理的思考の側面 ・ 主に他者とのコミュニケーションの側面	・ 主に創造的・論理的側面	・ 主に他者とのコミュニケーションの側面	・ 主に創造的・論理的思考の側面（説明的文章） ・ 主に感性・情緒の側面（文学的文章）
対象と言葉・言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。				

表1のように、国語科の三領域には、それぞれ主に着目させる側面がある。その側面に着目することで、毎時間の学習において獲得する「知識・技能」を明らかにすることができる。そして、その「知識・技能」を獲得するために、言葉による見方・考え方を有効に働かせることは、自分の考えをより深いものへと変容させることができると共に、その過程において思考力・判断力・表現力を高めるものである。さらに、それぞれの側面から学習していくことは、以下のような、「学びに向かう力・人間性」を育むことに直結している。

- 創造的・論理的思考の側面→「自己を表現しようとする姿」
- 感性・情緒の側面→「豊かな心をもとうとする姿」
- 他者とのコミュニケーションの側面→「他者の心と共感しようとする姿」

したがって、これらの側面をバランスよく指導することが、子どもの「学びに向かう力・人間性」を総体的に高めることにつながり、主体的に自分の思いや考えを深めようとする人間性を育むことができると考える。そのためには、相手意識・目的意識を明確にして伝え合いをさせることのできる学習課題を設定し、必要感をもって「認識したものを基に思考する（聞くこと、読むこと）、思考したことを基に表現する（話すこと、書くこと）、表現されたことを再認識する（聞くこと、読むこと）」という学びの過程をたどらせることが重要である。

このように、毎時間の学習で獲得する新たな知識・技能を明らかにし、それに向かって思考・判断・表現しながら、子ども自身が自己の考えの変容に気付いて新たな知識・技能を獲得することが、さらに「学びに向かう力・人間性」を高めていくことになる。その際、「ことばによる見方・考え方」を働かせることは、自分の考えが学習課題に対して適切なものになっているのか既習・他者・教材等とつなぎながら問い直していく過程となる。このことは、情報を編集・操作したり、新しい情報を既にもっている知識や経験・感情に統合し構造化したり、既にもっている考えの構造を転換したりするなどの国語科の主体的・対話的で深い学びへとつながるものである。

### 3. 国語科の特質に応じた主体的・対話的で深い学びを促す学習指導のポイント

主体的・対話的で深い学びを実現するために、以下のポイントで教師の働きかけを行っていくことが重要であることを見いだした。

#### 3.1 内容と形式の両面から言葉を吟味することにつながる一単位時間の学習課題の設定

本校では、一単位時間の学習課題を単元の言語活動の試し作りで明らかになった子どもの課題を基に、その課題解決を図ることができるように設定してきた。特に「読むこと」の領域では、教材文を媒介として学ぶことになるため、学習課題設定の際に文学的文章や説明的文章そのものの中身である内容的価値と文章の表現や構成等の形式的価値の一方に重きを置いてしまう傾向があった。本来、内容的価値と形式的価値は一体であり、形式的価値を手がかりにして、より内容を深く読むことができるものである。したがって、内容的価値と形式的価値のバランスを意識した一単位時間の学習課題を設定していくことは、教師自身の意識の中に指導すべき知識・技能が明確になるために重要である。

【学習課題設定に必要な要件】

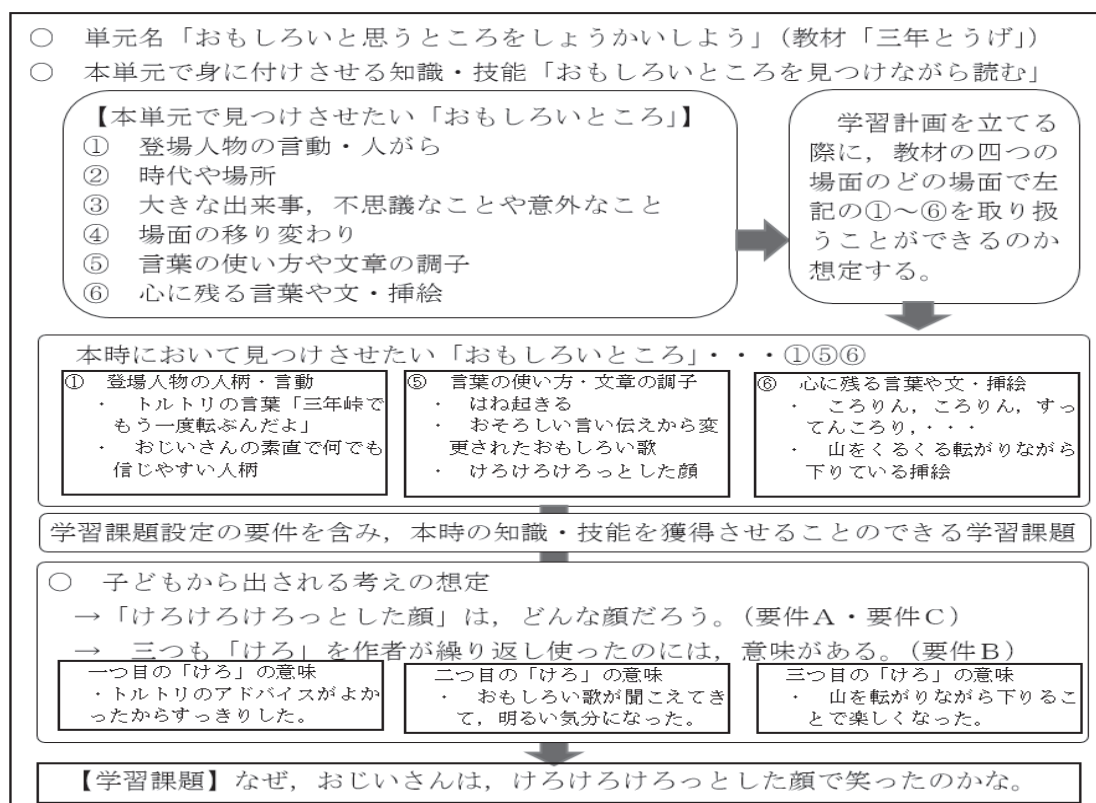
- A 主体的に学習に取り組むことができるように，子どもの疑問を基に設定した学習課題
- B 協働して解決することができるように，多角的・多面的な考えを出しやすい学習課題
- C 考えを深めることができるように，吟味させたい言葉そのものを含んでいたり，その言葉を吟味することにつながったりする学習課題

そこで，学習課題設定に必要な要件を，上述のように設定した。

上記の要件を満たした学習課題は，具体的に，下の【図1】のような流れで設定する。具体例のように，教師が教材研究で一単位時間に身に付けさせる知識・技能を明らかにした上で，子どもの考えを想定し，学習課題を設定する。その際，具体例では，要件Aとして『『けろけろけろっとした顔』とはどのような顔であるのか，疑問をもたせることができる。』，要件Bとして「子どもたちが様々な角度から答えを探ることができる」，要件Cとして『『けろけろけろっとした顔』という吟味させたい言葉を含んでいる』ことから，学習課題を設定した。

このような学習課題を設定することが，子どもの考えを広げたり深めたりする学び合いにつながっていくと考える。

なお，学習課題設定においては，前時の振り返りの際に次時の学習の見通しをもたせておくことが重要であると考えられている。なぜなら，その振り返りの中で，自分の考えの変容や身に付いた知識・技能を確認したり，次時にどのような学習を行いたいかを考えさせたりすることが，単元を通してつながりのある学習となり，子どもの学びへ向かう姿を高めていくと考えるからである。



[教材研究における学習課題設定の流れ（教材：三年とうげ）]

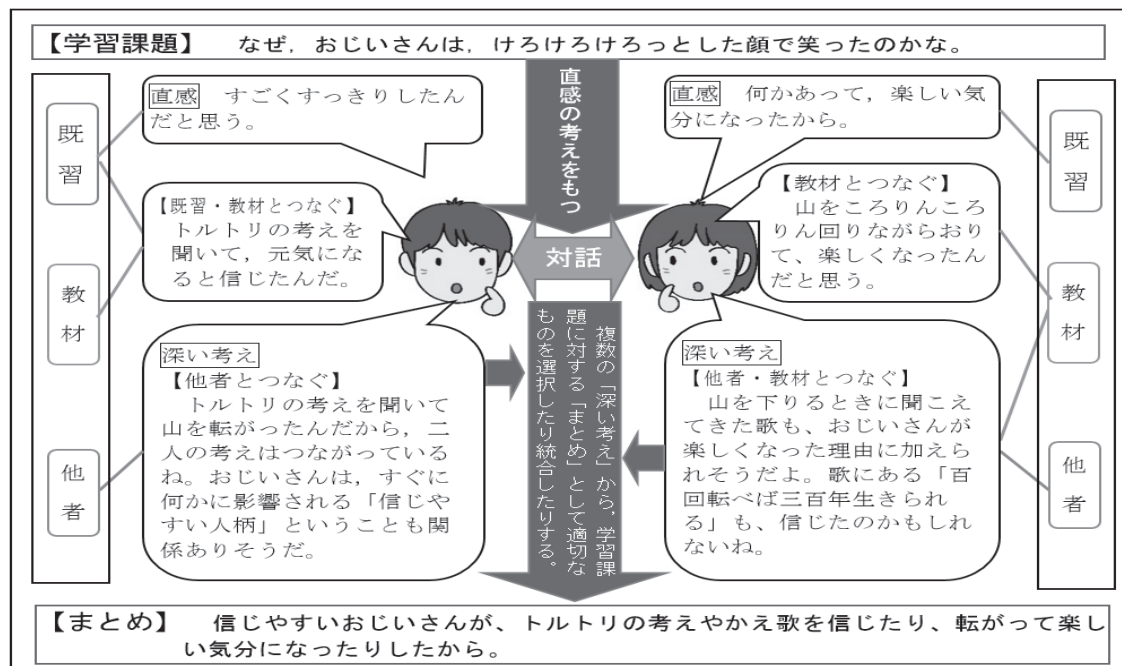
### 3.2 言葉と言葉をつなぎ、自分の考えを再構築させる「ひとみ学習」

「ひとみ学習」とは、個人での学び（「ひとりで」）、相手との一対一での学び（「ともだちと」）、集団での学び（「みんなで」）を、一単位時間の中に配した主に学習形態にかかわる学習指導のことである。その指導の際、ねらいに即して教師が形態を取捨選択し、その学び合いで子どもの思いや考えを往ったり還ったりさせながら、自分の思いや考えを他者の思いと比較、関係付けさせ、深化・拡充させていくことが重要である。

子どもの考えを深めさせるには、まず、自分の思いや考えをもつことが大切である。なぜなら、自分の考えをもつことが、他者と伝え合い「自分の考えを周囲に広げたい」「自分の考えを深いものにしたい」といった学習意欲を高めて対話をしなければ、主体的・対話的な学び合いへと発展しないからである。そこで、自分の考えをもたせるために、学習課題に対する直感をもたせ、「ひ」の段階で教材文や既習等を基にその直感の根拠を集めさせることで、自分の考えへと高めさせる。次に、友達との対話の中で自分の考えや考えの根拠を交流させる。その交流において、子どもたちは、自分の考えを相手に分かってもらおうと既習事項・教材・他者の考え等を基に、言葉と言葉をつないで説明し合う。その際、相手を納得させるために、ことばによる見方・考え方を働かせて伝え合うことが、自分の考えをより強固にしたり、新たな考えを付け加えたり、よりよい考えへと修正したりして、深い考えへとつながる。

さらに、ひとみ学習で共有した複数の「深い考え」を基に、学習課題に対する答えとして適しているものを判断したり、いくつかを統合したりして、自分なりの本時のまとめを書かせる。

このように、自分の考えをより深いものにし、それらを統合して自分の考えを再構築していくことが、国語科における主体的・対話的で深い学びであると考えられる。



【ひとみ学習の具体例（教材：三年とうげ）】

### 3 目標

- (1) 物語を読んだ感想を書くことに興味をもち、様々な国の話やその土地に伝わる話を読もうとすることができる。
- (2) 登場人物の行動や会話の理由について、叙述から考えたことや自分の経験と結び付けて考えたことを友達と比較し、登場人物の気持ちを想像することができる。
- (3) 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。

### 4 指導計画（全12時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	どんなお話かな。楽しみだな。	1～2 <u>学習意欲の喚起・試し作り・課題解決の見直し</u> 『スーホの白い馬』を読んで、かんそうカードを書こう。 ・ 『スーホの白い馬』を読み、感想カードのモデルを提示して、感想カードを記入し、交流させる。（試し作り） ・ 単元の目標を設定し、学習計画を立てる。	○ 単元への興味・関心を高めるとともに課題意識をもたせるために、モンゴルの紹介をしたり、並行読書をするための物語を紹介したりする。 ○ 課題意識をもたせるために、感想カードの試し作りをさせ、うまくいったこととうまくいかなかったことから、学習課題を明確にさせる。
しらべる⑥	どのように読めば、感想が深まっていくのかな。	さまざまな国のむかし話やその土地につたわる話を読んで、かんそうを書き、友達にしようかいしよう。	○ スーホの気持ちに寄り添って場面の様子を想像させるために、場面ごとに登場人物の行動や会話の理由を考えさせたり、感想を書かせたりする。
	「スーホの白い馬」の学習を通して、感想が変わるのかな。楽しみだな。	3～8 <u>限定された場面での試行錯誤（本時）</u> 「場面ごとに『スーホの白い馬』を読み、かんそうを書こう。」 ・ 場面ごとに読み取る。 ・ スーホの気持ち。 ・ 場面の様子。 ・ 複合語などの表現の工夫。 ・ 場面ごとに感想を書く。	○ 感想をよりよく表現するために、気持ちを表す言葉を提示し、自分の思いに合った感想を書くことができるようにする。
ふかめる②	会話や行動の理由を考えると登場人物の気持ちが分かってきたよ。他の場面ではどうかな。	9～10 <u>試行（試し作り）の見直し</u> 「もう一度、『スーホの白い馬』のかんそうを書き、友だちと伝え合おう。」 ・ 試し作りと見直しの感想カードを比較したり、感想を友達と交流したりする。	○ 見直しの感想カードに書く最も心に残った場面を考えさせるために、これまで書きためた場面ごとの感想カードを基に前時までの学習を振り返らせる。
	友達の感想を見ると、自分のと違っておもしろいな。	11 <u>類似教材での学習</u> 「むかし話や、その土地につたわる話を読んで、かんそうを書こう。」 ・ 前時までに学習したことを生かして、感想カードを作成する。	○ 自分の思いや考えが深まったことに気づき、学びのよさを実感させるために、試し作りの感想カードと見直しの感想カードを比較させ、変容を確かめさせる。
ふりかえる①	学んだことを生かして、他の作品も読みたいな。		○ 互いの思いを分かち合い、感じ方や考え方を認め合えるようにするために、友達の感想カードのよさについて考えさせたり、発表させたりする。
	友達の感想に書かせれば本もおもしろそうだ。もっといろいろな物語を読んでみたい。読書っておもしろいな。	登場人物の行動や会話の理由を考えながら読むと、登場人物の気持ちがよく分かった。そして、感想の試し作りよりもよくなり、読書することが楽しくなってきた。	○ 並行読書した作品の感想カードを書くために、前時までの学習を感想カードを基に振り返らせる。
いかす①		12 <u>活用場面の想起</u> ・ この学習でどんな力が身に付いたか話し合い、今後の読書生活への意識付けを行う。 ・ 並行読書の感想カードを交流し合う。	○ 本単元の学習を価値付け、今後に生かすために、身に付けた力を振り返らせる。

様々な国の昔話やその土地に伝わる話の並行読書



## 5 本時 (5/12)

### (1) 目標

「どなり立てる」「言いかけました」などの言葉に着目して、とのさまの人物やスーホの気持ちに気づき、スーホが白馬のことばかり考えていた理由を想像することができる。(本時で高める学力の三要素)

### (2) 本時の展開に当たって (本時の主張)

本時では、課題の明確化を目的とした学び合いが重要だと考える。そこで、スーホの気持ちを想像させるために、「白馬はどうしているだろうと、スーホは、そればかり考えていました。」という叙述に着目させ、「自分がスーホだったら、どんなことを考えるか。」と問い、互いの考えのずれを基に本時の学習課題を設定する。

### (3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         どうしてスーホは、白馬はどうしているだろうと、そればかり考えていたのかな。                     </div> 2 直感の考えをもつ。 3 課題解決の見通しをもつ。 4 スーホが白馬のことばかり考えている理由について考える。	(分) 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身に付ける国語の能力を意識させるために、前時までの心にのこったところとその理由について書かれた感想を紹介する。</li> <li>○ 一人一人の課題意識を高めるために、「自分がスーホだったらどんなことを考えるか」と問い、互いの考えのずれを基に本時の場面の疑問点を明らかにさせ、学習課題を設定する。</li> </ul>
しらべる・ふかめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         ひとりで考える                          白馬をとられてとても悲しかったんだと思う。                          スーホが大切に育ててきた馬だから。                     </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">                         白馬がどうな                          ったか心配に                          思ったと思う。                          約束を破った                          り、どなり立                          て、自分勝手                          な人だからさ                          ないか不安に                          なると思うよ。                     </div> <div style="text-align: center;">                         とみ                          殿様は白馬を                          大切に扱って                          いないから不                          安になったか                          も。白馬を「                          ぎんか三まい                          」で買えるも                          のと捉えてい                          たら、どんな                          仕打ちをされ                          るか心配にな                          ったと思う。                     </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         交流した感想や気づきをまとめる                          スーホは白馬を大切に思っていたし、ずっと一緒にいようと約束していた。でも、わがままな殿様に奪われ、白馬のことが心配になったり、寂しくなったりしたから、白馬のことばかり考えていたのだね。                     </div>	31	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達との学び合いを活発にし、自分の考えを深めたり、変容を実感させたりするために、スーホの行動の理由に対する直感の考えをノートに書かせ、思いや考えを明確にする。</li> <li>○ 自分の考えを深いものにさせるために、とのさまの人物に着目した考えや白馬への思いに着目した考えをグルーピングして伝え合わせ、自分の考えを付加させたり、修正させたりする。</li> <li>○ 殿様に奪われた白馬のことを心配するスーホの気持ちに気付かせるために、「どなり」と「どなり立てる」という言葉や、「ぎんか三まい」と「金か三まい」を比較させ、殿様の理不尽な行動に対するスーホの気持ちを想像させる。</li> <li>○ 考えを再構築させるために、「白馬のことばかり考えていた」理由として、心配、さびしさ、悔しさ等の中から判断したり、結合したりして、まとめを作らせる。</li> </ul>
ふりかえる・いかす	4 学習のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         兄弟のように大切な白馬をとのさまにうばわれ、かなしくなったり、しんばいになったりしたから。                     </div> 5 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         スーホのしたことや言ったことの原因について考えると、物語を楽しく読めたよ。他の作品も、想像を広げながら読むと楽しそうだな。                     </div>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の言語活動である「感想」の材料とするために、本時の場面で心に残ったこととその理由を感想カードに書かせる。</li> <li>○ 次時の学習への意欲を高めさせるために、友達との交流を通して新たな考えを発見したり、自分の考えの変容に気付いたりしたことを振り返らせる。</li> </ul>

## 授業のポイント

### ① 学習課題の設定

登場人物の行動に対して、「もし自分だったら」と考え比較させ、本時の場面の疑問点を明らかにし、学習課題を設定した。なお、本時の学習課題「なぜスーホは、白馬はどうしているだろうと、そればかり考えたのか。」は、先述した学習課題設定に必要な要件A、B、Cを踏まえて設定した。

要件Aについて：自分がスーホの立場なら、様々なことを考えそうだが、スーホは「白馬のことばかり」考えていることに対して、疑問をもたせることができる。

要件Bについて：「兄弟のような大切な存在である白馬と離れてさびしい」、「『ずっと一緒だよ』と言っていた約束を守れずに悔しい」、「意地悪な殿様に白馬を連れて行かれて心配」など、様々な角度から答えを探することができる。

要件Cについて：スーホが「白馬はどうしているだろうとそればかり考えていた」理由を想像することで、「言いかえしました」、「どなり立てる」などの複合語や「ぎんかを三まいくれてやる。」といった表現に着目することにつながり、スーホが殿様に対してどのような気持ちをもっているのか想像を広げることができる。



T：〇〇くんは、とのさまは「うちのめせ」とどなっている怖い人だと言ったけれど、本文には「どなり立てる」と書いてあるね。「どなる」と「どなり立てる」は何か違うかな。

C：「どなり立てる」の方が、大きな声でどなっていて、強そうなイメージがある。そんな殿様に大切な白馬をとられたから、「大丈夫かな。」と心配になったのだよ。

### ② ひとみ学習

学習課題に対する自分の考えを、まず「ひとり」で根拠となる文を探させた。次に、その根拠を基に、「ともだち」や「みんな」で交流させた。その際、考えが似ている者同士でグルーピングし、自分の考えの根拠となる情報を増やしたり、他者の考えと比較し自分の考えを強固・付加・修正させたりすることができた。



#### 【ひとりで】

白馬をとられてかなしいからだと思うな。「かなしみは、どうしてもきえません。」と本文に書いてあるよ。でも、これでみんなは納得するかな。



#### 【ともだちと】

A：前の場面で「ずっといっしょだよ。」と約束している。その約束を守ることができなかったから悔しい気持ちでいっぱいだと思うよ。

B：僕の考えと違うけれど納得できた。この考えもノートに書き加えておこう。



#### 【みんなで】

T：「さびしい」という考えの根拠で「白馬をとられたかなしみは…」というところに線を引いているけれど、どんな人にとられたのかな。

C：意地悪な殿様にとられたよ。あつ、「とのさまにとられたから」という考えの人たちからも意見を聞いてみよう。考えが変わりそうだよ。

#### 4.2 考察

本時の場面において、学習課題設定に必要な要件A, B, Cを踏まえた学習課題を想定したことで、子どもたちは、スーホが白馬のことばかり考えた理由について疑問をもち、「寂しい」「悔しい」「心配になった」といった多面的な考えを出し、複合語の効果にも気付किながら場面の様子について想像を広げることができた。よって、要件A, B, Cを踏まえて学習課題を設定することは、子どもの考えを広げたり深めたりする学び合いにつながると言える。

学び合いについては、子どもたち全員が直感の思いや考えをもち、教材から自分の考えの根拠を探し、他者の考えと比較・関係付けながら学び合うことができた。その中で、既知の知識や「どなり立てる」「言いかえす」などの複合語に着目した意見から、「みんなで」の学び合いが深まった。その結果、学習課題に対する最初の考えとまとめで書いた最終の考えとを比較すると、自分の考えが強固・付加・修正されたまとめを書くことができた。よって、言葉と言葉をつなぎ、自分の考えを再構築させるひとみ学習を行うことで、言葉による見方・考え方を働かせた深い学びを展開することができたと言える。

#### 5. 今後の方向性

今回の研究では、主に「読むこと」領域の文学的文章における深い学びの実現に向けて研究してきた。次年度は、「話すこと・聞くこと」領域や「書くこと」領域、「読むこと」領域の説明的文章における深い学びの実現に向けた学習指導を研究していく。

#### 6. おわりに

本報告は、鹿兒島大学教育学部附属小学校平成29年度研究紀要で発表した研究内等に基づき、国語科教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。